

第3回八幡浜市男女共同参画計画検討委員会 議事要録

- 日 時 平成29年3月27日(月) 15時30分～16時18分
- 場 所 八幡浜庁舎 5階 全員協議会室
- 出席委員 13名(2名欠席。1名代理出席)
- 議事次第
 - 1 開会
 - 2 議題
 - (1) 第2次八幡浜市男女共同参画計画(素案)の修正について
 - (2) 提言書(案)について
 - (3) その他
 - 3 閉会

1 省略

2 議題

(1) 第2次八幡浜市男女共同参画計画(素案)の修正について

事務局説明

事務局より説明

質疑・意見内容

(意見なし)

(2) 提言書(案)について

事務局説明

事務局より説明

質疑・意見内容

(会長) それでは、提言書案に関しまして、ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

(委員) 提言4のところですが、「不登校児」とあるのを「不登校児童生徒」というようにしていただいたらどうかと思います。といいいますのは、乳幼児期から小・中・高等学校までとしておりますので、「不登校児」という使い方はあまりしていないのではないかと思いますので、「児童生徒」

というふうにしていただいたらと思います。

それに関連してなのですが、「学校の養護教諭などとも密に連携」とあるのは、この前の話には出ていたのですが、養護教諭だけと連携するのはいかがかなという気もしております。教育支援室や、例えば「学校等関連諸機関」、その中に養護教諭もあり、担任もあり、いろんな先生方も関わるといような形で、なにかその辺一工夫していただけたら、管理職、校長の立場としても分かりやすいんじゃないかなという気がしております。

(会長) これについて、事務局から何かありますか？

(事務局) 先ほど言われましたとおり、修正したいと思います。

(会長) 確かに関係諸機関といった形にした方が幅が広がりますし、皆さん関わっていただけるというようなことだと思いますので、今の文言で直していただいたらと思います。

(委員) 提言4のところですけども、「安全で安心できる子どもが就学できる環境を全体的に支援する」といような、なにか相応しい文言が一言はいると、ひとり親家庭とか不登校児童にフォーカスされていても、最終的に市の方向性とも合致しているのだと思うのですけども。

「乳幼児期から小・中・高等学校まで一貫した支援体制を構築すること」の手前に、「子どもたちがどんな環境であれ公平に安心して教育を受けられる体制を目指す」というかそういうものがあればいいのかなと思います。

(副市長) 分かりました。そのような文章をいれさせていただきます。

(委員) 提言3なのですけれども、「子育てに関わっているパパママを対象としたワークショップ」というところにちょっと引っかけたのは、「パパママ」だけじゃなく、例えば両親がいなくておじいちゃん、おばあちゃんなど。これ「パパママ」しかできないのか、そこなのですが、なにかいい言葉ないものかなあと？「パパママ」と限定しない方がいいような気がして

いるのですが。

(委員) 孫がいる世代としては「育じい」とかありますが、両親が働いている時は、例えばおじいちゃん、おばあちゃんが家で面倒をみている家庭もあると思いますので、いま委員さん言われたように、「パパママ」の限定ではなくて、なにか限定しない言葉があったらいいかなと私も思いました。

(会長) そのとおりだと思います。どなたかなにかいいアイデアがある方いらっしゃいませんか？

(委員) 委員さんおっしゃっていることは確かに分かるんですが、「パパママ」というのは「パパママ制度」というところがあって、どうしてもこれを残しつつですね、そのなかで、「パパママ、プラスその関係者」というような表現が入ってきた方がインパクトがあるんじゃないかという気がするのですが。

育児休業給付というもののなかで、「パパママ制度」というのが一般に使われているんですね、公式の文書のなかでですね。共同参画ということろでは、そのあたりを残していただいた方がありがたいかなというのが個人的な意見です。

(副市長) 「パパママ」は残した方がいいですよ。

(市民福祉部長) 去年の夏にイベントを実施したんですけど、若いお父さん、パパママですね。非常にいい雰囲気です。いろんな活発な意見が出て、そこらへんをたぶん提言として出したんじゃないかなと推測します。

(会長) 「子育てに関わっているパパママなどを対象とした」でいいんじゃないですかね。そのあたりは、できるだけ堅苦しくなくというのが今のご意見だと思うので、そういう文言でしていただいたらと思います。

(会長) 提言6で、育休の取得を短期でとればというお話だと思うんですけども、前回の時に男性の育児休業取得を推進していったらどうかといったお話

があったと思うのですが、「男性の」というのをどこかに入れるっていうのは難しいですかね？

今、全国的には男性の育児休業取得を推進していきましょうということなので。女性はかなり育休取得率も上がってますから。

(副市長) もし入れるのだったら、「市は率先して男性を含めた職員の育児休暇のための」というのでは。

(会長) ぜひ、そういうのをいれていただいたらと。よろしいですかね。

(意見なし)

(委員) 提言5は、少し文言整理をしていただきたい。目的と手段が混同されているようですので。どのように直すかは事務局へお任せします。

(会長) 今、ご意見がありましたので、目的と手段が分かりやすくなるように直していただけたらと思います。

(副市長) 今のお話でいけば、目的が「女性の就業機会を拡大し、多様で柔軟な働き方を実現するため」、手段が「多様就業型ワークシェアリング」ということで。もう少し分かりやすく書きます。

(委員) 例えば、「多様就業型ワークシェアリングなどの取組を進めることにより、多様で柔軟な働き方を実現することにより、女性の就業機会を拡大するための就業環境整備を推進すること」というような趣旨にさせていただきたいと思います。

(委員) 施策の方針7で女性の能力開発（エンパワーメント）の支援の記載がありますが、スキルとかが揃ってないと、女性も仕事に入っていけないので、絡めて、ワークシェアリングにつなげるというのはどうでしょうか。

多様的に働くのは、働く女性の側にしっかりと働くだけの環境もそうですけれども、意識なりあるいはスキルなりが育ってないと。そうやってはじめて、多様的に働くことができるのかなと。

このエンパワーメントってとっても重要で、例えば、子育て中のお母さんに講習を提供するとか、能力開発とか、あるいは社会にうまくスムーズに戻れるように、M字カーブの一番下がった時に、教育の機会を提供するなどして、ちょうど、子育てしている間に勉強してもらおう、そういうことを。

(委員) そういうのも入ってるかとは思いますが。ただ、前回申し上げたように我々経済団体からは、やっぱり女性が就業機会を拡大することが女性の社会参加に大切なことだから、その取組を項目にあげてほしいことを言いました。

育児とか家事とか様々な制限があるので、そこをワークシェアリングみたいな考え方で、経営者側が就業をシェアするようなシステムを採用する機運を盛り上げていただきたいということで申し上げたんです。

そういった意味では、委員がおっしゃる部分も一部に入るのかなという気はします。

(委員) アプローチの問題で、いくらパートからやってみませんかといっても、女性の方に自信がないとなかなか社会に戻れないってケースがあつてですね。そのちょうど中間ぐらいに、少し自信をつけることに取り組まれるとものすごく戻りやすい。現実には再就労ということに当たっては非常に効果的です。

(委員) 厚生労働の方で考えている内容というのが、女性が一旦、出産とか育児で職場を離れることはある程度仕方がない方もいらっしゃるという考え方なんですよね。再出発するにあたって、いろんな時期を捉えて職業訓練などをいろいろとやっていこうというのが施策としてある。

全ての女性が出産・育児が終わった後にすぐに復活するというのはなかなか難しいということを前提にという話だと思うんですけども。それを前提に考えていかないと、多様なニーズには応えられないという今の時代だろうということ。それを行政側がしっかりとフォローアップしていかなくちゃいけないという、そういう時代になってきているということです。

これが施策なので、そのあたりをご理解いただきたいかなということだ

と思うんですけども。

(委員) たぶん、おっしゃっていることは多面的なものの見方の問題で、委員さんおっしゃるような対策も必要なんだろうなとは思いますが。ただ、少なくとも参画計画のなかではそれを項目としてあげていただければ、その機運を盛り上げる一つになるかなと思って前回提言させていただいたところですよ。

(副市長) 今言われたように、女性の能力開発の視点が抜けているのかなと。多様就業型ワークシェアリングの前段で本人の能力開発がいるんですという趣旨だったと思いますんで、そこを言葉にしてみたらどうかというところで、経済団体のところにもつながっていくのかなと思うんですよ。そういうことで考えます。

(会長) それでは提言5のところでもそういった形でやっていただくことで。

(委員) ワークシェアリングという用語そのものはこういう使い方して差し支えないですか？もともと就職が困難な時期に仕事を分かちあう目的でワークシェアなんですけども、意味を少し発展させて違った意味で使ってますよね。

(会長) ワークシェアの前に多様就業型という形で、そういう風に使いますよと言ってる言葉にはなってるので。

(事務局) 提言案を作る際に「ワークシェアリング」だとそういった意味合いがあるので。それだとどうしても男女共同参画の趣旨にはそぐわないということで「多様就業型」という言葉を先に付けさせていただいた経緯があります。

(会長) 他に何かありませんでしょうか？

皆さんよくみていただいたかなというふうに思います。提言書のどこを修正したらいいかという意見をたくさんいただきましたので、それを反映させていただきます。

ただ、もう一回会議をしてという形は難しいので、私の方で最終的な文言の修正に関しては一任をさせていただきたいと思うんですけども、ご承認いただけますでしょうか？

(意見なし)

(会長) では責任をもって、皆さんの意見を反映させるようにいたします。
提言書案を修正して、後日、私から大城市長へ手渡したいと思います。

(3) その他

質疑・意見内容

(会長) もし皆さんの方でなにかここで言うておきたいこととかございましたら、
ぜひお聞きしておきたいと思いますがいかかでしょうか？

(委員) 「はじめに」のところの文言の2つ目の段落のところなんです。「結婚・
出産後も働きたいと願う女性や、育児や介護をしながら仕事する女性が
増えてきている」ということで、どちらも女性という言葉で書いてあるんで
すけども、ぱっと最初見た時に、「結婚・出産後も働きたいと願う」の
は女性でいいんですけども、「育児や介護をしながら仕事をする」のも女性
とくると、結局、介護は女性の仕事というイメージがぱっと浮かんで来て、
そういうイメージで最初捉えてしまったので。

男性も介護しているし、男性も育児に関わらないといけないのに、言葉面
をとらえると女性の問題となっているというイメージがあったので。女性の
ことしか書いてないから、すごく違和感がありました。

(会長) 介護は本当に男性の問題とも言われてますから、ここをちょっと文言を
女性に限定しない形で。

(副市長) このところはまさに女性がでてきているのは本当おかしいですね。
他の表現にしないといけないのかなと思います。

(会長) 委員さんのご指摘のあった形にしたいと思います。

3 閉会

(会長) 大変活発にご意見を出していただきありがとうございました。

最後に私の方でしっかり責任を持って、提言書という形に修正したいと
思います。

それでは、これで第3回八幡浜市男女共同参画計画検討委員会を終了さ
せていただきます。

(副市長) 熱心なご意見ありがとうございました。この提言書、会長のご指摘を

いただきながら、皆さんのご意見も踏まえたものにしていきたいと思います。

今年の人事異動、先日発表したところですが、係長、課長補佐、女性が相当数増えてきております。年齢的に採用の狭間があって課長になる年齢の女性がまだ少ないんですけども、1人増やして市長部局に2人の女性課長となりました。もう何年かすれば、課長の3分の1ぐらいは女性になる時期もそう遠くはないのかなという気がしておりますので、女性の参画をどんどん促していきたいと思います。

市役所とても忙しいんですけども、この趣旨を踏まえながら行動していきたいと思います。

どうもありがとうございました。